

R6年度 学校教育自己診断結果報告並びに考察

質問項目の変更

今年度の実施にあたり、別添の下線部の箇所は昨年度より質問項目を変えている。

- ・出来るだけ質問を具体的に焦点化
- ・学校経営計画の具体的取り組みに対応

集計方法について

- ・回答数における比率を算出する方法のみとした。
- ・A:「よくあてはまる」+B:「ややあてはまる」を「肯定的評価」と捉える（従来どおり）
- ・C:「あまりあてはまらない」+D:「まったくあてはまらない」を「否定的評価」と捉える。
- ・「肯定的評価率上位3位」、「肯定的評価率が10ポイント以上上昇」、「学校経営計画に目標指標が設定されている項目」、この3点について着目した。

回収率

令和6年度

保護者 81.3% (小学部 84%、中学部 78%、高等部 80%)

教職員 100%

令和5年度

保護者 69.3% (小学部 68%、中学部 78%、高等部 61%)

教職員 100%

教職員の回収率は、今年度も100%を達成した。保護者の回収率は昨年度69.3%から12ポイント上がった。今年度は回収率を上げるために、必須項目を残して内容を精選したり、マークシート形式から丸チェック方式へ変更したり、回答しやすく工夫を行った。12ポイント上がったという結果から、その成果は十分に表れたと考えられる。

○保護者 155名回答 (回収率 81.3%)

18項目の質問に対して14項目で肯定率80%を超えていた。(昨年度20/33項目)。

肯定的評価率上位3位

1位【肯定率96.2%】《R5 84.4%》

「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。」

2位【同94.9%】《R5 90.2%》

「学校は、保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる。」

3位【同94.2%】《R5 90.2%》

「教職員は、子どもの障がいについて理解している。」

が肯定率の上位3つの項目となっている。

このことから、保護者の教職員に対する信頼度が高いことが分かり大変嬉しいことである。

肯定的評価率が10ポイント以上上昇

①「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。[85%以上]」

(肯定率96.2%)《R5 84.4%》

②「学校は、子どもが他の学校の子もたちと交流する機会を設けている。[75%以上]」

(同87.2%)《R5 75.4%》

③「子どもは給食を楽しみにしている。」

(肯定率81.4%)《R5 71.3%》

①「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。[85%以上]」

では、肯定率96.2%《R5 84.4%》、否定率0.6%で、目標指標の85%達成することができた。昨年度に比べ、肯定的意見11.7%ポイント増加し、否定的意見0.2ポイント減少と大幅な改善が見られた。年度初めだけではなく、台風等が近くなり影響が危惧される際に安心・安全メールで対応の文書を連絡したことがこの数値につながったと考えられる。

②「学校は、子どもが他の学校の子もたちと交流する機会を設けている。[75%以上]」

では、肯定率87.2%《R5 75.4%》、否定率5.1%で、目標指標の75%を達成することができた。昨年度に比べ、肯定的意見11.8%ポイント増加した一方、否定的意見も1.8ポイント増加となった。交流を積極的に行うことだけではなく、ブログや連絡帳でもその様子をお伝えしたことがこの数値につながったと考えられる。

③「子どもは給食を楽しみにしている。」

では、肯定率81.4%《R5 71.3%》、否定率8.3%であった。昨年度に比べ、肯定的意見10.1%ポイント増加し、否定的意見1.5ポイント減少と大幅な改善が見られた。児童生徒が楽しみにするような献立が多く盛り込まれたり、食材を工夫したりして提供することなどが数値の改善につながったと考えられる。

学校経営計画に目標指標が設定されている項目

- ・「学校は、保護者のニーズを踏まえた教育活動に取り組んでいる。[90%以上]」では、肯定率 94.9%《R5 90.2%》、否定率 1.3%で、目標指標の 90%を達成することができた。保護者の意見に耳を傾け、真摯な対応をとってきたことで、高水準を維持することができたと考えられる。
- ・「教職員は、子どもの障がいについて理解している。[90%以上]」では、肯定率 94.2%《R5 91.8%》、否定率 2.6%で、目標指標の 90%を達成することができた。この結果から、保護者から信頼を置いていただいていると考えられる。
- ・「子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている（感じている）。[80%以上]」では、肯定率 78.8%《R5 77.9%》、否定率 3.8%で、目標指標の 80%を達成することができなかった。しかしながら、否定的な意見は少なく、わからないと回答された方が 17%近くいたことがその要因と考えられる。引き続き楽しくわかりやすい授業実践を心がけていくことと、情報を発信していくことが大切であると考えられる。
- ・「教職員は、子どもの学習状況や努力を適切・公平に評価している。[90%以上]」では、肯定率 90.4%《R5 91.0%》、否定率 1.3%で、目標指標の 90%を達成することができた。「個別の指導計画」の様式を観点別評価、「手だて」、「評価」を書き分けられるようにし、保護者にとっても見やすい様式になり、それが定着してきた結果と考えられる。
- ・「学校は、子どもの将来の進路や職業などについて、発達段階や実態に応じて適切な指導や助言を行っている。[80%以上]」では、肯定率 81.4%《R5 74.6%》、否定率 3.8%で、目標指標の 80%を達成することができた。担任の先生が日々、連絡帳や電話対応、懇談等で、保護者の方と情報共有や連携を密に行っていることが、数値につながったと考えられる。また、高等部福祉説明会や PTA 施設見学会、PTA 進路講演会等、保護者が参加する進路学習の機会を潤沢に設定することができたことも、この結果につながった要因と考えられる。
- ・「学校は子どもに 1 人 1 台端末（タブレット型 PC）等を効果的に活用している。[65%以上]」では、肯定率 56.4%《R5 63.1%》、否定率 8.3%で、目標指標の 65%を達成することができなかった。地域の学校では、端末を自宅に持ち帰って宿題等を実施しているが、本校では全児童生徒分の台数はないため実施していない。そういったことから、1 人 1 台端末のとらえ方の違いが生じた可能性があると考えられる。工夫は必要だが、ルールを設定する等して自宅に持ち帰るということも検討していく必要があると考えられる。
- ・「地震や台風などの場合、児童・生徒や保護者にその対応が知らされている。[85%以上]」については『肯定的評価率が 10 ポイント以上上昇』で記載している。
- ・「学校は大規模災害に備え迅速かつ適切な対応ができるよう、対策の検討と整備を行っている。[75%以上]」では、肯定率 87.2%《R5 78.7%》、否定率 0.0%で、目標指標の 75%を達成することができた。非常用持ち出し袋の更新について、様式を新たに改定したり、各家庭へ配付して通知したり、学校ブログで安全学習（避難訓練）などの様子を通知したりしたことが、この数値につながったと考えられる。
- ・「学校は、施設・設備の点検、事故防止に配慮している。[70%以上]」では、肯定率 70.5%《R5 63.9%》、否定率 1.3%で、目標指標の 70%を達成することができた。学校ブログ等を活用して施設・設備の修繕や改善などをお伝えしたことが、この数値につながったと考えられる。
- ・「学校は、子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。[75%以上]」については『肯定的評価率が 10 ポイント以上上昇』で記載している。
- ・「学校はホームページの学校ブログ等で子どもたちの様子を知る機会を設けている。[70%以上]」では、肯定率 82.7%《R5 75.4%》、否定率 3.2%で、目標指標の 70%を達成することができた。学部・学年だより等で学校ホームページの QR コードを添付したり、定期的な授業の様子や三人行事、泊行事の様子等もブログで掲載したりして、それが保護者の中で定着してきていることが要因と考えられる。

○教職員 100 名回答（回収率 100%）

28 項目の質問に対して 22 項目で肯定率 80%を超えていた。（昨年度 29 / 47 項目）。

肯定的評価率上位 3 位

1 位【肯定率 95.0%】《R5 92.6%》

「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。」

2 位【同 94.0%】《R5 88.4%》

「教職員は服務規律の遵守等、教育公務員としての自覚をもって勤務している。」

2 位【同 94.0%】《R5 93.7%》

「児童・生徒の人権を尊重し、日常の教育活動を行っている。」

2 位【同 94.0%】《R5 90.5%》

「児童・生徒が夢や志をもって事故の可能性を広げ、粘り強くチャレンジする姿勢を育むような指導、支援を行っている。」

が肯定率の上位 4 つの項目となっている。

肯定的評価率が 10 ポイント以上上昇

今年度、10 ポイント以上上昇した項目はない。

学校経営計画に目標指標が設定されている項目

- 「児童・生徒の学びを支援するため、学部間の連携が円滑に行われ、うまく機能している。[70%以上]」では、肯定率 81.0%《R5 73.7%》、否定率 17.0%《R5 15.8%》で、目標指標の 70%を達成することができた。R4 年度から継続して「全校教科会」や高等部生徒会主催の全校交流会等を行ってきた成果が数値に表れたと考えられる。
- 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。[70%以上]」では、肯定率 85.0%《R5 76.8%》、否定率 12.0%《R5 15.8%》で、目標指標の 70%を達成することができた。首席カフェ2年目、メンタルヘルス研修等、教員間のコミュニケーション向上の機会が増えたことが大幅な改善につながったと考えられる。
- 「日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができています。[70%以上]」では、肯定率 80.0%《R5 75.8%》、否定率 16.0%《R5 16.8%》で、目標指標の 70%を達成することができた。この結果から昨年度よりも教職員間の関係性が良好に保たれていると考えられる。
- 「教職員間におけるセクハラ、パワハラ等の人権侵害事象が発生しないために啓発等を行っている。[85%以上]」では、肯定率 85.0%《R5 88.4%》、否定率 10.0%《R5 5.3%》で、目標指標の 85%を達成することができた。今年度は、職員室内に各種ハラスメントの対応窓口を掲示したり、月初めにも周知するアナウンスを行ったりしてきた結果、昨年度よりも少し数値が下がってしまったが、高い準を維持できていると考えられる。
- 「施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。[75%以上]」では、肯定率 87.0%《R5 82.1%》、否定率 11.0%《R5 12.6%》で、目標指標の 75%を達成することができた。安全点検後、修繕や改善に向けて依頼をし、関係教員や事務の方で迅速に対応したことが、肯定的意見の上昇につながったと考える。
- 「児童・生徒の実態をふまえ、指導内容や指導方法、学習形態の工夫・改善を行っている。[85%以上]」では、肯定率 95.0%《R5 92.6%》、否定率 1.0%《R5 4.2%》で、目標指標の 85%を達成することができた。可能な限りノー会議デーを設定したことで、教員の授業への工夫・改善を行う時間の確保ができたと考えられる。
- 「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。[80%以上]」では、肯定率 80.0%《R5 77.9%》、否定率 14.0%《R5 12.6%》で、目標指標の 80%を達成することができた。高い水準は維持できているが、より計画的な研修の実施されるような工夫を検討していくことが必要であると考えられる。
- 「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。[75%以上]」では、肯定率 80.0%《R5 76.8%》、否定率 14.0%《R5 16.8%》で、目標指標の 75%を達成することができた。校内研修を実施するうえで、講師には学校や児童生徒の実態をお伝したり、細かなやり取りを行ったりして、研修内容の検討を行った。その結果が数値に表れたと考えられる。
- 「初任者等、経験の少ない教員を校内で育成する体制がとれている。[60%以上]」では、肯定率 60.0%《R5 57.9%》、否定率 29.0%《R5 26.3%》で、目標指標の 60%を達成することができた。しかしながら、より高い数値をめざし、経験の少ない教員が相談しやすい環境を整えていくことを校内で考えていく必要があると考えられる。
- 「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。[75%以上]」では、肯定率 80.0%《R5 85.3%》、否定率 11.0%《R5 5.3%》で、目標指標の 75%を達成することができた。今年度は研修の成果を発表する機会をあまり確保することができなかった。また案内不足等もあり、それがポイントダウンにつながったと考えられる。
- 「近隣の小・中・高等学校との交流の機会を積極的に設け教育活動全般にいかしている。[75%以上]」では、肯定率 84.0%《R5 85.3%》、否定率 6.0%《R5 7.4%》で、目標指標の 75%を達成することができた。近隣の小中高等学校との学校間交流については、各学部で内容をより充実させるよう計画し、実施することができた。居住地校交流については、守口市門真市の教育委員会と連携し、各市の学校への周知を行い、相手校との調整をスムーズに行うことができた。このような取り組みからこの数値につながったと考えられる。